兵庫県のコガネムシ類*

高　橋　寿　郎

Tosio Takahashi; Pleurostict Lamellicornia of Hyōgo Prefecture

兵庫県産コガネムシに就いて筆者数回にわたり発表してきたが（兵庫生物、Ⅰ，5，Ⅱ，1～45，Ⅲ，½，3，1951～1956，昆虫学評論、Ⅶ，2，1957）其れ等に述べなかつた亜科、すなわちビロウドコガネ(Sericinae)，コフキコガネ（Meldonthinae)，アシナガコガネ（Hopliinae)，ヒゲブトハナムグリ(Graphyrinae)，カブトムシ(Dynastinae)，トラハナムグリ（Trichiinae)，ヒラタハナムグリ（Valginae）亜科についてここに発表したいと思う。

本報文を以つて兵庫県産コガネムシ全部を紹介した事になる。勿論未熟の筆者による調査であるから誤り追加の点も現われてくることと考えられるがこれらは時機を見て適宜発表することにより完全なるものに近づけたいと考えている。

末筆乍ら本文を草するにあたり文献について御援助頂いた西京大学、中根猛彦氏、東京農大、沢田玄正氏並びに多くの標本の御恵与、御援助を受けた山本義丸、大倉正文、石田裕、藤田国男、吉阪道雄の諸氏に厚く御礼申し上げる。

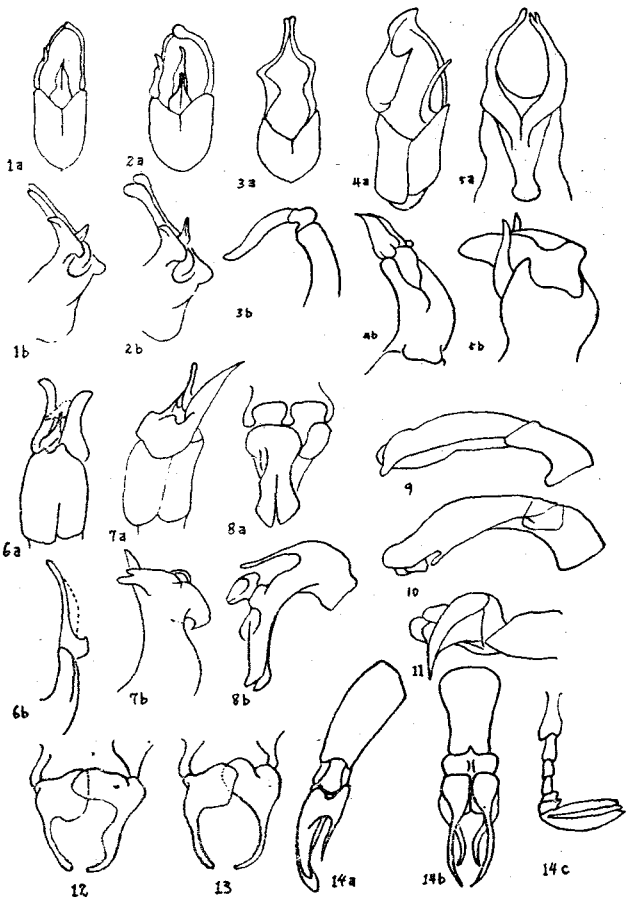

図　説　明

1. Serica spissigrada Brenske, 雄交尾器、a. 背面、b. 側面、
2. S. renardi Balloion, 雄交尾器、a. 背面、b. 側面、
3. S. grisea Motschulsky, 雄交尾器、a. 背面、b. 側面、
4. S. boops Waterhouse, 雄交尾器、a. 背面、b. 側面、
5. S. similis Lewis, 雄交尾器、a. 背面、b. 側面、
6. S. orientalis Motschulsky, 雄交尾器、a. 背面、b. 側面、
7. S. japonica Motschulsky, 雄交尾器、a. 背面、b. 側面、
8. S. secreata (Brenske), 雄交尾器、a. 背面、b. 側面、
9. Lachnosterna morosa Waterhouse, 雄交尾器、
10. L. picea Waterhouse, 雄交尾器、
11, L. kiotonensis Brenske, 雄交尾器、
12. Sericania mimica Lewis, 雄交尾器、
13. S. imadati Sawada, 雄交尾器、
14. Miridiva castanea (Waterhouse), 雄交尾器、a. 側面、b. 背面、c. 触角、

* 兵庫県甲虫誌資料 11.

Subfamily **Sericinae**

本亜科には日本産として4属知られている。従来 Genus Autoserica BRENSKE (1897), Genus Aserica LEWIS (1895)の2属が他に知られていたが Asoricaと Autoserica の両属に就いてはその模式種をどれに選ぶかと云う問題から CHAPIN (1932), 湯浅 (1933), 沢田 (1938) 等が夫々検討しておられ結局同一属と考えられて来た、 Autoserica 属の Serica と異る点としてあげられた主な点は後脚の腿・脛節の巾広く扁平なる事にあるが此の区別点は多くの個体を見ると無数の段階的なものがあり属を別ける特徴とならないとして村山 (1954) は Serica 属に統一されている。筆者も概ねこの考えに賛成出来ので本報文では同一属として取扱つた。

なお、MEDVYEDV, S.N著のFauna U. S. S. R. (1952) には可成り属のわけ方が異り日本産も含まれているが Ophthaloserica, Maladera (s. str). Maladera (Aserica), Paraserica, Serica 等に別けられている。Maladera は触角10節よりなる事により9節の Serica と別けるが如きはやはり同一属とした方が良いと考えられ余り細分し過ぎている様である。

兵庫県には Serica, Sericania 属の2属のみを産し他の2属、Gastroserica. Microserica は産しない。

県産 Sericinae 亜科の属の検索表

1. 触角の片状部は♂♀共に3節よりなる……Serica
— 触角の片状部♂は4節、♀では3節、後基節の中央には横の凹線をもつ …… Sericania

Genus Serica MAC LEAY

本属の日本産は20種知られているが兵庫県産としては10種が現在わかつている。

県産 Serica 属の検索表

1. 体は長形にて脚も亦細長なり…… 2
— 体は卵形若くは丸形にて上面多くはビロウド状をなす…… 5
2. 前背板及び翅鞘に光沢を有する……S. srisea
— 前背板及び翅鞘に光沢を缺く…… 3
3. 前背板及び翅鞘には細毛又は鱗毛を有し翅鞘の中間帯上に細点刻を有する。体は樺色或いは黄褐色 …… S. similis
— 前背板及び翅鞘には全く毛を有せず、翅鞘中間帯上に細点刻を缺く…… 4
4. 前背板び翅鞘には暗褐色にして黒色斑紋あり、体下面は暗褐色 …… S.boops
— 体極めて細長く、脚も亦細長く、体の下面は褐色 …… S. nigroguttata
5. 体丸形に近く頭楯の中央に丸き瘤状の隆起あり…… S. secreta
— 体丸形に近く頭楯の中央に丸き瘤状の隆起を缺く …… 6
6, 後腿節及び後脛節の巾は余り広くない…… 7
— 後腿節及び後脛節の巾は広い、体赤褐色、真珠状光沢を有する …… S. castanea
7, 体大形、やや細長く、脚もやや長し…… 8
— 体小形、卵形、脚も短大なり…… 9
8. 後脛節の端刺は跗節の第1よりやや長い…… S. spissigrada
— 後脛節の端刺は跗節と略同長である…… S. renardi
9. 触角は9節…… S. orientalis
— 触角は10節、前脛節に第3歯の痕跡あり…… S. japonica

1. S. grisea MOTSCHULSKY ハイイロビロウドコガネ
極めて普通種、

（産地）神戸—六甲山、摩耶山、山の街。箕谷、氷上郡神楽村。養父郡氷の山。

（分布） 日本(北海道、本州、四国、九州)、朝鮮、

2, S. boops WATERHOUSE ヒゲナガビロウドコガネ
翅鞘に黒色斑紋を有するものは他に S. nigrovariata 及び S. nigrouttataの2種があり S. nigrovariata の方は県下の記録がある、本種は S. boopsに良く似ているが体は黒色にて眼は大ならず、前背板には黄白色のやや長き細毛を有し、翅鞘の会合線及び側縁より外側に沿つて黒色に縁取られ腹面には細毛及び刺毛多く、触角は細長ならず、前背板の前縁は前方に変曲せず、前縁角は突出する、雄交尾器の形状は先端まで略々同幅にて S. boops の如く彎曲して尖らず等の点で区別出来る県下での記録は恐らく本種 S. boops を間違つて同定したと考えられる。普通に産する。

（産地） 神戸—六甲山、摩耶山。氷上郡妙見山。神崎郡、段ケ峯、養父郡氷の山、

（分布） 樺太、日本(北海道、本州、四国、九州)、済州島、朝鮮、満州。

本種には次の2変種が知られている。

2′. var. takagii SAWADA

翅鞘に全然黒色斑紋を有せず、頭部黒色、頭楯及び口器は黄褐乃至暗赤褐色、脚及び触角も黄褐色、前背板及び翅鞘は全く光沢がない、中胸、後基節、腹部等腹面は黒色にてやや褐色を帯ぶ。

（産地）養父郡氷の山。

2″. var. unicolor SAWADA

前変種に似るが腹面は黒色でなく上面と同様である。

（産地） 養父郡氷の山。

3. S. nigroguttata Brenske クロテンビロウドコガネ

色彩形状 S. boops に似る。黄褐色を呈し光沢なく、前背板及び翅鞘に不同の黒褐色斑紋と黄白色の鱗毛を有す。

体は長形にて脚は甚だ細長くなり、頭楯は巾広からず、略々長さの1倍半。両側は殆んど真直にして前方に少しく狭り、前縁は彎曲し中央において稍々隆起する。頭頂部は光沢なく帯黄色の細毛を少しく装う、脚は大形にして突出す。触角は9節、♀の片状部は柄部より少しく短し、前背板は短く少しく前方に向つて狭まる、前縁角近くにして少しく彎曲す。一般に暗色を呈し、黄白色の鱗毛にて斑紋付けられ時に明瞭なるも概ね不明瞭なり。翅鞘は条線を有し、中間帯は暗色を呈し、甚だ不同の黒褐斑紋と散点状の鈍き光沢部を有し、黄白色の鱗毛を生ず。尾節板は中央に沿いて少しく隆起す。前脛節は2歯を有し、後脛節の端刺は長短ありて長き方は第1跗節の半なり。翅鞘は S. boops の方は先方に向つてやや円味を帯びているが本種はほとんど一直線である。

先端は会合線に向い強く切れ込んでいる。本種は吉阪氏が氷の山で採集された1♀を有するのみであるが大変珍しい種であると思われる。ただし1♀のみなので確実に本種であると同定するのはいささか躊躇されるのであるが S. boops と一見して異るので一応本種に同定して置く。

（産地） 養父郡氷の山。

（分布） 日本（北海道、本州）、台湾、中国

4. S. orientalis Motschulsky ヒメビロウドコガネ

本種は普通に産する種である、卵形を呈する日本産の他の種とは触角が9節なることによつて区別し得られる。各種農作物を害するがその種類は大変多い、すなわちアマ、テンサイ、ナタネ等の稚苗、リンゴ、ナシ等の嫩葉並に花を荒食、クローバー、クワ、ネギ、スモモ、モモ、スグリ、フサスグリ、ブドウ、カラマツ、サクラ、ポプラ、シヤク、タンポポ、ワラビ、ハコベ、ヨモギ、ヒルガオ、ニレ、カシワ、ヤマハダ（村山博士）。普通年1回の発生で成虫態で越年するも中には2か年に跨る場合もあるようである、5月中旬頃より現われ、6月頃最も多く発生する。

なお、本種が発音すると云う事が発表されている。

（産地） 西宮市香櫨園。神戸市一御影、布引、烏原、小部、須磨。氷上郡神楽村。養父郡氷の山。

（分布） 日本（北海道、本州、四国、九州）台湾朝鮮、中国、蒙古、セレベス。

5. S. japonica Motschulsky ビロウドコガネ

前種に酷似するが触角の10節なること、前脛節に第3歯を有するにより直に区別し得られる。前種に比すれば個体数は少い。

（産地） 神戸一摩耶山、烏原、山の街、須磨。出石郡神美村。養父郡氷の山。

（分布） 日本（北海道、本州、四国、九州）、済州島、朝鮮。

6. S. renardi Balloion レナルドビロウドコガネ

頭部黒色を呈し幅広く前方にせばまる。前頭は黒褐色で粗大なる点刻を疎布する。複眼は大きいが中央膨出することがない。頭楯は巾広き扇形をなし、黒褐色で前側縁共に殆んど直線状をなし強く上反し、表面には粗大なる点刻が密布して皺状をなしている。前背板は巾が長さの2倍あり、黒色で周辺はやや赤味を帯びている。前後縁中央は少しく外に張出し側縁は直線状であるが前方僅かに彎曲する、前角は突出し、後角は直角に近い。小楯板は楯形。翅鞘と共に前縁に沿い短小白毛を列生している。翅鞘は長形で長さ胸幅の2倍に近く側縁は極めて僅に彎曲し、刺毛を列生する。表面は黒色ビロウド状を呈し、中高で少しく窪める点条を存し、各列間は少く高まり両側に点列があり、中央には不規則なる点刻を散布する。

下面は黒褐色で光沢なく点刻を密布する。後基節は側縁に褐色刺毛を生ずる。後腿節は細くて先方に細まることなく前後縁に沿い刺毛列を有する。後脛節は光沢あり細長で♀にてはやや広い。端刺は跗節と略同長である。♂生殖器は S. spissigrade に似るが両片の中間より出る中小片の先にさらに細長き1少片を有する、Paramera の先端がやや太し。

本種は従来全く記録されていなかつた種で S. spissigrade によく似ているが個体数は稀な様である。

（産地） 神戸市舞子、氷上郡柏原。

（分布）日本（本州）、東シベリア、朝鮮、満州。

7. S. spissigrada Brenske オオビロウドコガネ

本種の形状は全く前種 S. renardi に似る。

体は卵形にて稍々長く、暗赤褐色ないし黒色にて光沢なく通常体の下面は上面よりやや赤味を帯ぶ。頭部は稍々巾広く、頭楯は赤味を帯び光沢ありて、点刻と極少数の毛を有する。巾は急に狭まり、前縁はほぼ一直線をなすか或いは僅かに後方に彎曲することあり。周縁は軽く上反する。前頭との会線は明瞭にて、前頭部の方へ山形をなす。前頭は点刻を散布し、極少数の褐色毛を有し、その前方は稍々光沢を有すが、頭楯及び後頭部は全く光沢なし。触角は10節、♂の片状部は長くして柄部より大である。

前背板は細点刻を有し、両側は前方近く急に狭まり、前縁角は突出する。両側縁には褐色の短刺毛を列生するも不明瞭の場合もある。小楯板は三角形にて先端円く、点刻を有し、基部に極微小なる少数の毛を認め得る。翅鞘の線条には1列の細点刻を有するも、中

間帯上にも少数の細点刻を散布する。中胸は、は点刻を有し、上縁より中央部に毛を生ずる。腹節には少数の褐色短刺毛を列生するが明瞭ならざるものもある、尾節には少数の褐色毛を生ずる。前脚の基節及び腿節には刺毛を列生し、後腿節は光沢なく少数の短刺毛を列生するが明瞭でない、前脛節は 2 歯を有し、後脛節の端刺は第1跗節よりやや長い。

体長： 8～9.5mm 体幅： 4.5～5.5mm

本種も図説されていないので余り知られて居らず、個体数も少い。

（産地） 永上郡柏原、市島。養父郡氷の山。

（分布） 日本（本州、四国、九州）、琉球、朝鮮

8. S. similis Lewis カバイロビロウドコガネ

個体数は少いがやや普通に産する。

♂交尾器の変化は可成りある様で沢田は始め2型を紹介され（1937），E. A. Chapin は3型ある事を以って夫々独立種として S. similis S. peregrima, S. lewisi を記載された（1938），続いて沢田は更に各地の標本により8型程記され、いずれも変異の幅に入るとして同一種すなわち本種として取扱われた（1950）. 県下産のものは Chapin が真の S. similis として記された南日本産、British Museum 藏のものとほぼ同一である。

（産地） 神戸—摩耶山、烏原、山の街。氷上郡神楽村。

（分布） 日本（本州、四国、九州）、済州島、朝鮮、ロングアイルランド。

9. S. castanea (Arrow) クリイロビロウドコガネ

普通種で電燈に多く飛来する。

（産地） 神戸—御影、摩耶、灘弓ノ木町、烏原、大池。宝塚市武田尾。氷上郡柏原、黒井。出石郡神美村、養父郡氷の山。

（分布） 千島、日本（北海道、本州、伊豆大島、伊豆諸島、四国、九州）、済州島、朝鮮、台湾、中国、北米。

10. S. secreta (Brenske) マルガタビロウドコガネ

本種も普通に得られる。

（産地） 神戸摩耶山、烏原、箕谷、大池、丹生山、須磨。川西多田。神鍋山。氷上郡柏原、神楽。養父郡氷の山

（分布） 日本（本州、九州）、済州島。

Genus Sericania Motschulsky.

本属のものは日本産として現在20種1亜種が知られているが産地が特に限られている様で平地には少い様に思われる、亦其の種間の区別も甚だ困難である。兵庫県産としては6種記録出来たが更に今後の調査による所甚だ大なるものがある。

県産 Sericania 属の種の検索表

1. 光沢を有せず、ビロウド様なるか或はやや鈍く真珠様反射をなす……2
— 光沢を有す……4
2. 体は樺色或いは黄褐色、頭部黒色、全く光沢を缺く、♂触角の片状節は4節、片状節の第1節は他より短い、触角第5節はほぼ第4節と同長、♀触角の片状節は3節 …… S. aikyoi
— 体は黒褐乃至帯褐黒色……3
3. 帯褐黒色、ビロウド様にて全く光沢なく、翅鞘の中間帯は余り明瞭ならず、頭楯と前頭の会線は円く彎曲する…… S. angulata
— 黒褐色にて稍々鈍き光沢を有し、翅鞘の中間帯は明瞭、頭楯と前頭との会線は山形に彎曲する…… S. quadrifoliata
4. 体は上下面共に淡い帯褐黄色にて、淡い緑色の個属性光沢を有する…… S. fulgida
— 体は黄褐又は赤褐色より濃褐色にて、翅鞘の条線は明瞭、……5
5. ♂触角片状節は5節よりなり、片状節第1節は葉片状に延びるものからやや認めるられる程度色々あるが5節よりなる事は明瞭。♀は触角第5節は他の節より長し…… S. mimica
— ♂触角片状節第1節は通常葉片状であるが前者より短い、触角第5節は大変短く或いは全く葉片状に延びない、♀の触角の最終3節は通常葉片状である…… S. imadati

11. S. angulata (Lewis) クロチヤイロコガネ

本種は帯黒褐色にて記載によるとビロウド状にて光沢無く、前背板の両側の中央にあまり明瞭ならざる赤味を帯びたる斑紋を有し且後縁は狭く赤味を帯びている。♂触角の片状部は4節よりなり各節ほぼ等長である。

併し乍らここに本種と同定した標本は山本氏により氷の山で採集された1♀標本で後基節には明らかに横凹線を有し、前背板の両側の中央よりやや前方に赤味を帯びたる斑紋を有し且後縁は狭く赤味を帯びており翅鞘帯褐黒色を呈しておるのであるが可成りの光沢を有し前頭上に隆起を有することにより或いは本種に非ざる種かとも思われるが僅か1♀の標本で今少し材料を得て詳しく調べるとしてここには本種と同定して置く。

（産地） 養父郡氷の山。

（分布） 日本（本州、九州）。

12. S. quadrifoliata (Lewis) ヨツバチヤイロコガネ

本種は前種とは記載のみでは極めて似て居りはたして独立種として取扱うべきものであるかは今後の問題である。ただ前者と違う所は前背板に斑紋無く両側が赤味を帯びているのみである。

筆者の有する標本は後基節には横凹線を有し、前背板に斑紋無く両側も赤味を帯びて居らず黒褐色にて稍々鈍き光沢を有し、翅鞘の中間帯は明瞭である。

（産地）　神戸市箕谷、丹生山。

（分布）　日本（本州、四国）。

13. S. mimica Lewis　ナエドコチヤイロコガネ

本種は本属中最も良く知られた名で其の分布も広く知られているのであるがどうもはつきりしていなかつた種の1つである。

体の形状、色彩、♂交尾器の形状以外に♂触角片状節が5節より成り片状節第1節は葉片状を呈するものからやや認められる程度の迄色々あるが5節より成る事は認め得られ、♀触角の第5節も♂の様にやや長い点で区別出来ると共に県下においても本属中一番個体数は多い様であるが平地には余り産せず中、北部山地帯に産する。

沢田氏の発表された S. quinquefoliata及びS. takaoana は共に本種のシノニムである。

併し乍ら本種には極似した2種即ち S. ohtakei S. imadati があり後者 S. imadati の方は県下に産する。

（産地）　氷上郡妙高山。養父郡氷の山。

（分布）　日本（北海道、本州）。

14. S. fulgida Nijima et Kinoshita　ツヤチヤイロコガネ

本種は S. fuscolineata に良く似るが稍や小形にして黄褐色を呈し♂交尾器の形状が異るとして新種とされたものであるが（新島・木下、1927）、S. fuscolineata 其のものが日本産として甚だ疑わしい。黄褐色を呈す系統のものは此の他に S. lewisi Arrow があり、沢田氏の発表された S. testacea Sawada (1938) は本種のシノニムである。

S. fuscolineata に就いては村山博士（1950）Medvedev 氏（1952）は日本産として記録されて居られるが本種或いは S. lewisi の事であらうと沢田氏は推察しておる（1953）。

本種は伯耆大山には可成り産するが県下では大変珍しく氷の山で1頭採集しておるのみである。

（産地）　養父郡氷の山。

（分布）　日本（本州、九州）

15. S. aikyoi Sawada　アイキヨウチヤイロコガネ

本種は Serica similis に外観上似る亦 Sericania galloisi 及び S. tohokuensis にも似る。

Serica Similis とは後基節に横の凹線を有し、

Sericania galloisi とは体が少々小さく、前背板の前角、角ばり♂触角の葉片状第1節は細長い事により、S. tohokuensis とは体がやや大きく、眼は小さく、前背板前縁角は少々角ばる、頭部と前背板の点刻は大きく密なり、♂生殖器の形状等により区別出来る。

沢田氏により群馬県浅間高原二度上で採集されたもの記載された種でで其の他では全く記録されていない種であるが氷の山産の1♀が之に該当するので此処に本種と同定して置く。尚学名和名共採集者愛敬氏によつている。

（産地）　養父郡氷の山。

（分布）　日本（本州）

16. S. imadatei Sawada　イマダテチヤイロコガネ

S. mimica Lewis 及び S. ohtakei Sawada に良く似る。

S. mimica より体は小さい。赤味がかつた或いは黄褐色で光沢がある。頭部黒色、頭楯、前背板、翅鞘の条間、尾節板は多少黒味がかる。触角は♂最終4節は通常葉片状であるが S. mimica より短い。第5節は大変短く或いは全く鰓葉状に延びない。♀触角の最終3節は普通葉片状、第6節は多少か或いは全く鰓葉状を呈する。第5節はいくらか三角形で前2節よりやや長い。♂生殖器は S. ohtakei に似るも右鉗子の基部は僅かに拡り中央に歯状発達なし。

沢田氏により1955年奈良春日、滋賀県、四国松山産の標本により採集者今立氏の名を冠して新種として発表されたもので兵庫県産は始めての記録である。

（産地）　養父郡氷の山。

（分布）　日本（本州、四国）

Subfamily Melolonthinae

本亜科の日本産は10属24種知られている。Genus Miridiva は日本産として所属する種は無かつたのであるが村山博士は従来 Holotrichia castanea Waterhouse にて知られていた種を本属に移された(1934).

兵庫県産の本亜のものは7属11種が知られている。

県産 Melolonthinae 亜科の属検索表

1. 前背板の前縁に膜状縁がない……2
— 前背板の前縁に膜状縁を有し、触角は10節にして片状節3節なり…… Apogonia
2. 触角の片状節雌雄共に3節より成る……3
— 触角の片状節雄は3節より多し……4
3. 触角は9節よりなる …… Miridiva
— 触角は10節よりなる …… Lachnosterna
4. 爪は先端に於て二分す…… Heptophylla
— 爪は基部に1鋭歯を分つ……5
5. 触角の片状節雄は7節にして長く、雌は6節にして短い。腹節の両側に白斑あり、両側部の発達少しく異る …… Melolontha
— 触角の片状節は雄7節、雌5節爪の両側部同形なり……6
6. 雄の触角の片状節著しく長く翅鞘の斑紋不規則なり……Polyphylla
— 雄の触角の片状節著しく長からず翅鞘の斑紋線状

なり…… Granida

Genus Apogonia KIRBY

本属日本産は8種知られているが兵庫県産は1種のみしか知られていない。

1. A. amida LEWIS ヒメカンシヨコガネ

本種は稀な種であるがかつて故米谷正司氏が赤塚山で冬期萩の根本で冬眠中の本種を多数採集された事があるが現在では採集されていない様である。最近では電燈に飛来せるものが時々採集されている個体数は少い様である。九州には普通の種であるとのこと。

幼虫も萩の根本で採集されるので萩を食害するものと考えられる、此の類の台湾に産するものはイネ科植物を食害する事で知られている。

（産地） 神戸（沢田、1939）. 住吉（伊賀）、御影（和田）、赤塚山、熊内（柴内）、摩耶山（増田、橋本 1941）.

（分布） 日本（四国、九州、本州）

Genus Miridiva REITTER

本属には中国産 M. trichophorus 及び朝鮮産 M. koreana の2種が知られていたが従来 Lachnosterna castana として知られた種の雄触角が9節よりなる事により移された（村山、1954）。日本産は此の1種のみである。

2. M. castanea (WATERHOUSE) クリイロコガネ

本種に就いては前報文に於いて述べたが如く県下での記録はあつたが標本を有していなかつたので如何なる種であるかわからなかつたが山本氏の御厚意で柏原産の1♂を頂いたので調べた所触角は9節であり村山博士の意見に従い Miridiva 属として取扱つた。一見して他の Lachnosterna 属の種とは翅鞘上に明瞭な縦隆線を認め得ないことと、頭頂部に鋭い横隆起線があるので簡単に区別出来る。

（産地） 神戸—御影（関、1933）, 摩耶山、多井畑（北村）。氷上郡柏原。

（分布） 日本（本州）、済州島、朝鮮。

Genus Lachnosterna HOPE

上記種の属が変つたので本属日本産は6種知られている事になり県下産は4種である。種の検索表は前報文（1952）に記したので此処では省略する。各種についてもその報文を参照して頂き産地は可成り増加しているが地名のみに止めた。

3. L. kiotonensis (BRENSKE) クロコガネ

（産地） 神戸—御影、摩耶山、烏原、妙法寺、舞子、垂水、加古川。津名郡開鏡。朝来郡生野。氷上郡柏原、同郡妙見山。

（分布） 日本（本州、四国、九州、隠岐島）。台湾、朝鮮、中国。

4. L. convexcpygo (MOSER) マルオクロコガネ

（産地） 神戸—烏原、長田、山の街、舞子。津名郡開鏡。氷上郡新井。養父郡氷の山。

（分布） 日本（本州、九州）、中国。

5. L. morosa (WATERHOUOSE) オオクロコガネ

（産地） 神戸—魚崎、灘弓ノ木、摩耶山、烏原、多井畑、舞子。氷上郡柏原、同郡芦田村。

（分布） 樺太、日本（本州、四国、九州）、 済州島、朝鮮、中国。

6. L. picea (WATERHOUSE) コクロコガネ

（産地） 神戸—烏原、妙法寺。出石郡神美村。

（分布） 日本（北海道、本州、九州）、朝鮮。

Genus Granide MOTSCHULSKY

本属の日本産は1種知られているみで県下にも産する。

7. G. albolineota MOTSCHULSKY シロスジコガネ

本種は各種図鑑に図説されているので良く知られた種である。本種及びヒゲコガネ、コフキコガネ類は海岸とか河岸の様な砂地の所に多く産し、砂地と関係がある様で香櫨園の浜等でよく採集される。本州でも西から東に向つて海岸地帯に分布し、欧州でもこの類は大体河に沿つて採集されるそうである。電燈に飛来するのも稀でない。この種は北は北海道より南は台湾迄分布しているが琉球、台湾産は夫々別亜種として区別されている。

（産地） 兵庫（LEWIS. 1895.）西宮市香櫨園、神戸—御影、摩耶山、板宿、妙法寺、多井畑。播磨 別府浜ノ宮。

（分布） 日本（北海道、本州、四国、九州）。

Genus Heptophylla MOTSCHULSKY

本属の日本産は1種のみである。

8. H. picea MOTSCHUDSKY ナガチヤコガネ

本種も各種図鑑に図説されているので良く知られた種である。スギ、ヒノキ、ヒバ、アカマツ、クロマツ、カラマツ、トドマツ、エゾマツ、コウヤマキ、イチイ等の針葉樹及び種々の濶葉樹類の害虫として著名、併し其の害は幼虫による根の部分が主である。其れ故上記の樹の多い所には多産する。成虫は6月下旬に現われる、多くは7月上旬頃から羽化し発生の最盛期は7月下旬である。成虫は地中に潜み、1日中に外界へ出現するのは主に黄昏時である。

（産地） 兵庫（HEYDEN, 1879）。神戸—摩耶山、烏原。氷上郡新井。雪彦山。養父郡氷の山。

（分布） 千島（国後島）、日本（北海道、本州、四国、九州）、朝鮮。

Genus Polyphylla Harris

本属の甲虫は欧州より亜細亜にかけて多く分布しており日本産は1種しか知られていないが、台湾に1種産し、MEDVEDEV氏の Fauna U. S. S. R. に依ると欧州、亜細亜には可成りの種が記されている、而して日

本産ヒゲコガネは形態上の差でもつて変種が記録されているが村山博士に依ると（1954）別に変種として別ける必要が無いとしておられる、尤も此の変種というのは現在の日本には産しない、MEDVEDE 氏の論文では之等は亜種として取扱われて居る。更に同氏は本属の下に Gynexophylla, Mesopolyphylla, Polyphylla s. str. Xerasiobia, Centralasiobia の各亜属を採用されている。

9. P. latricollis LEWIS ヒゲコガネ

本種も大方の図鑑に図説されているので良く知られている種である、砂地に関係あるらしい事はコフキコガネ類と同様である。

村山博士に依ると本種の分布に九州中部より南及び中国、満洲、朝鮮を示され何故か本州を掲げられていない、個体数は余り多くない様だが本州は古くから産する事が知られ居り現在でも採集されている。

朝鮮では西部海岸寄り、満洲ではハルピンに致る迄（ハルピンでは1932年の大洪水で絶滅したと）分布している。台湾には近似のの1種 P. formosanaを産する。

MEDVEDE氏は日本のみを産地として、村山博士の同一種の変異巾に入るものとされている中国、蒙古、満洲、朝鮮産のものは Polyphylla 属中の Gynexophylla 亜属として亜種 chinensis chinensis, chinensis mandschuria の取扱をされている。

兵庫県下でも筆者は1940年以後全く未採集であり他に採集された事も聞いていない、絶滅したとは考えられず（現在大阪の城北公園付近で可成り集採されている、1957）極めて稀種であるが産するものと考えられる。

（産地） 神戸—高取山、妙法寺、播磨。出石郡神美村

（分布） 日本（本州、四国、九州）、済洲島、朝鮮、満洲。

Genus Melolontha Fabricius

本属のものはアジアよりヨーロッパにかけて広く分布し、欧州では古くから知られかつ森林害虫の内最も有害とされている種類を含む。

TESAR (1938) 及びMEDVEDEV (1951) は Hoplosternus属として本属に属する種を取扱つておられる、Hoplosternus 属は既にARROW (1913), NIIJIMA et KINOSHITA (1923) により本属として取扱つておられる。

本属の日本産は3種知られて居り、兵庫県産も3種知られて居る。

県産 Melolontha 属の検索表

1. 体毛は灰白色、上面の毛は細く短い、前頭の点刻は大きく両側は密、中央は多少とも粗、雄の頭楯は巾広く両側縁は殆んど真直、雌の頭楯両側縁は殆んど平行で前縁中央は湾入する…… M. frater
— 体毛は黄褐色、上面の毛は短く細い、前頭の点刻は微細で密、雄の頭楯は横長であるが縦の長さは前種より明かに長く前縁は上反する、雌の頭楯両側縁は前方に向い明らかに狭くなる…… 2
2. 雄の触角片状部は彎曲し前脛節第2外歯は明瞭、尾節板は変化多く短いかやや長い、雌の頭楯前縁の中央は狭く湾入し、尾節板は短く先端は広く円まる…… M. japonica
— 雄の触角片状部は殆んど彎曲しない、前脛節第2外歯は痕跡的、尾節板は長く狭く突出し、先端中央は湾入または刻入する、雌の頭楯前縁中央は広く湾入する、尾節板は短くその先端中央は僅かに刻入する…… M. satsumaensis

10. M. frater ARROW オオコフキコガネ

本種はクヌギ、ナラ、カシワ、カシ、ガマヅミ、スズカケノキ、クリなど、その他低木の害虫として次記コフキコガネとともに知られている。幼虫の食物及び被害に就いては未だ知られていない。

本種の分布は砂地と関係があるらしく海岸や河岸の様な砂土のある近くに多く産する。

本州では西の方から東に向つて海岸地帯にずつと分布しており、河岸に沿つて内陸に入り込んでおる様で、欧州奥地のコフキコガネの産地は大体河に沿つておるとの事である。

地方に依つて変異が著しく、其の変異は3地方に明らかに区別出来るとして内蒙古、北支、朝鮮に産する subsp. gobiensis 台湾に産する subsp. taiwana の2亜種が知られておる。従来 Hoplosternus japonicus HAROLD なる学名で知られて居た種である。

個体数はコフキコガネに比すと少い、和名オオコフキコガネと称するがコフキコガネと比して大きくはない。

（産地） 神戸、住吉、烏原、山の街、摩耶山、須磨、西宮市香櫨園。出石郡神美村。養父郡氷の山。

（分布） 日本（本州、四国、九州、伊豆大島、屋久島）

11. M. japonica BURMEISTER コフキコガネ

本種の分布は RIETTER (1901) は Suyfun, MOSER (1813) は朝鮮、MEDVEDEV は中国等を掲げてあるが野村氏に依ると日本にのみ産するとみるのが良い様である。

兵庫県では普通である。

（産地） 兵庫（WATERHOUSE, 1875, HEYDEN, 1879）. 播磨、神戸、御影、六甲山、摩耶山、烏原、山の街、箕谷。養父郡氷の山。

（分布） 日本（本州、四国、九州）。

12. M. satsumaensis NIIJIMA et KINOSHITA

サツマコフキコガネ

本種は新島・木下両氏により新種として発表された種であり、その後 TESAR の記載した Hoplosternus satsumaensis 及び H. kinoshitai も本種と同一種である。沢田は故 J. A. E. LEWIS の神戸産の本種2頭ある事を発表された (1937),沢田は中胸突起の非常に長いこと及び雄触角片状部のM. frater及び M. japonica より短いこと雄交尾器の形状によつて本種として報ぜられた。しかるに野村の研究 (1952) によると雄の尾節板及び交尾器は変異するが地理的変異でなく、個体変異の様であるとし尾節板の形状から沢田の本種は M. japonica ではないかと想像されるとし本種は九州特産の種類であらうとされておる。筆者残念乍ら該当すべき個体を県下では採集していないし、沢田の J. A. E. LEWIS の標本も見ていないので此処には一応記録としてのみ記して置く。

(産地) 神戸 (J. A. E. LEWIS, 沢田、1952)

(分布) 日本 (本州? 四国? 九州)

Subfamily **Hopliinae**

本亜科は各脛節共可動の端刺を有せざることにより、コガネムシ科の他の亜科と区別される。頗る変異性に富みその分類は困難である。中央アジア、欧洲に可成の種が知られているが日本産は2属5種 (他に分布の疑はしいもの2種) を産する。

県産 **Hopliinae** 亜科の属の検索表

1. 前尾節は大部分露出し、翅鞘の会合線の先端に刺毛束を有す……Ectinchopli a
— 前尾節は殆んど露出せず、翅鞘の会合線の先端に棘毛束を有せず……Hoplia

Genus Ectinohoplia Redtenbacher

日本産は3種 (他に1種分布の疑わしいものを産す) 知られており、県下産1種のみである。

1. E. obducta (MOTSCHULSKY) ヒメハナムグリ

極めて普通に産する、5, 6月頃栗の花等に多し。ミカンの害虫としても知られている (酒井、1950)。背面極めて色彩変異に富み黒鱗全く消失して一面に黄称し、色を呈するものを var. sabulicola MOTSCHULSKY と背面の一様に黒色を呈するものを var. caminaria REITTER と称する。之等以外に背面一様にこげ茶色を呈するもの、その他中間的色彩のも極めて多くその変異は多様である。

(産地) 川西市多田、一の鳥居。神戸市六甲山、摩耶山、鳥原、山の街、箕谷。津名郡開鏡。養父郡氷の山。

(分布) 樺太、日本 (北海道、本州、四国、九州)、蒙古、中国。

Genus Hoplia Illiger

日本産は2種産することが知られており (3変種あり) 県下にも2種を産する。

県産 **Hoplia** 属の種の検索表

1. 頭楯の前縁は少しく湾入し、前縁角は円く、少しく前方に狭まる。前背板の後縁角は殆んど円し、前脚及び中脚の短爪は長爪の¾弱なり、前背板及び翅鞘は斑紋を装ざるか、或いは極めて基色と類似せる不明瞭なる斑紋を装う。……H. communis
— 頭楯の前縁は直線状に截断され、両側は略々平行なり、前背板の後縁角は少しく角ばる……2
2. 体の背面は殆んど鱗片を有せず、鱗片は円し……H. moereus
— 体の背面は円形の鱗片にて被わる……var. reini

2. H. communis WATERHOUSE アシナガコガネ

本種は東京方面には普通に産する種であるそうだが県下においては下記の如き記録を知るのみで今の所筆者は未採集である。

黒色斑紋を表わせる var. maculata BATES が知られているがそれは県下での記録はない。

本種の生態に就いては神谷、小沢氏の報文 (1950) がありその食餌植物としてはミカン、キイチゴ、ノバラ、ツツジ、シヤクヤク、ニセアカシア、ハコネウツギ、コゴメウツギ、ガマズミ、トベラ、シヤリンバイ、イボタノキ等主として白い花弁を食い花が少くなるとカキ、クリ、サクラ、ナラ、ニセアカシア、スイカズラ等の葉をも食するとある。

(産地) 播磨。神戸市六甲山、鬼ケ平。

(分布) 日本 (本州、四国、九州)

3. H. moereus WATERHOUSE クロアシナガコガネ

本種に就いては既に述べた (1951)。

(産地) 兵庫 (WATERHOUSE, 1875)。加東郡青野ケ原。

(分布) 日本 (本州、九州)

3a. var. reini HEYDEN

本変種は HEYDEN により H. reinii として独立せる種として発表されたるものにて H. communis に酷似せる種であるが、頭楯、前背板その他の形状により容易に区別せられる。H. moereus と区別する所は鱗片の被平以外に差異を見出し得ざるを以つて沢田氏は変種として取扱われた、筆者も調査したが♂交尾器等も差異を認めなかつたので変種として取扱うのが適当と思う。MEDVEDEV (1952) は独立種として取扱つている。

本変種は目下のところ氷の山のみに産する事が知られておるのみで氷の山にては極めて普通に産する。他

に1変種 var. hakonensis が知られておるが県下には産しない。

（産地）　養父郡氷の山。

（分布）　日本（本州、四国、九州）、台湾。

Subfamily **Dynastinae**

日本産は3属知られておるが県下には2属を産する（他の1属はトカラより知られておる）。

県産 Dynastinae 亜科の属の検索表

1. 頭部に長大なる枝角状の突起を有す。後脚跗節の第1節は次節と同形なり …… Allomyrina
— 頭部に枝角状突起なし後脚の跗節の第1節は多少三角形をなす。中後脛節は先端急に太さを加え冠状の刺棘を有す …… Eophileureus

Genus Eophileurus Arrow

1. E. chinensis Faldermann　コカブトムシ

個体数は少い。樹液或いは糞尿に来集する事が知られており、ゲジゲジを食する例も記録されておる（長谷川、1946）。

（産地）　神戸—御影、車、板宿、垂水。佐用郡。

（分布）　日本（北海道、本州）、済州島、朝鮮、台湾、中国、ブータン、ビルマ。

Genus Allomyrinae Arrow

2. A. dichotomus Linne　カブトムシ

極く普通に産する。

（産地）　神戸—御影、摩耶山、烏原、山の街、須磨。出石郡神美村、神鍋山。

（分布）　日本（本州、四国、九州）、琉球、台湾、朝鮮、北支、印度支那。

Subfamily **Graphyrinae**

此の亜科に属するものの日本産は1属1種のみしか知られていない。

Genus Amphicoma Latreille

従来 Genus Anthypna Eschscholtz として知られていたが E. A. Chapin の研究（1938）よりして沢田は本属に属せしめられた（1950）。

1. A. pectinata (Lewis)　ヒゲブトハナムグリ

本種は東京付近には5月中旬頃、普通に産する事が知られているがその他の地では少い種である。近畿地方の産地も殆んど知られておらずはたして産するか疑わしい、県下にも全く産地は知らない、ただ故八幡氏が記録されているのを知るのみで（1942）生前色々と同氏と交通していたのであるから詳しい事を確めて置けばよかつたのだが故人となられては如何ともなし難い、一応記録種として取扱つて置き今後の調査を待ちたい。なお雄は飛翔中のものが得なれるが雌は葉上等に静止しておるとのこと。

（産地）　Hyogo (Yawata. 1942)

（分布）　日本（本州、四国）

Subfamily **Trichiinae**

日本種は4属10種知られておる。

県産 Trichiinae 亜科の属の検索表

1. 前脛節の外歯は3個にして後脛節は後角に2歯を有す…… Osmoderma
— 前脛節の外歯は2個なり後脛節は後角に1歯状突起を有す……2
2. 前跗節の第1は真直、脛節の端棘より短かし…3
— 前跗節の第1節は少しく彎曲し、脛節の端棘に比し雄は長く、雌は短かし……Trichius
3. 前脛節は内側の先端に一可動の刺棘を有す。雄の中脛節は強く曲る。…… Gnorimus
— 前脛節はその内側に刺棘を有せず。雄の中脛節は真直なり…… Paratrichius

Genus Osmoderna Serville

本属日本産は2種知られているが其の中の1種 O. barnabita Motschulsky の日本産は疑わしい。

1. O. opicum Lewis　オオチヤイロコガネ

本種は県下で摩耶山が記録されているだけで其れ以外全く知られておらず非常に稀種並びに再調査を要する種である。

生態に関しては伊賀氏の報文がある（1939）。其れによると本種は径二尺内外もあるスギの大木に棲息しその洞の内部に於いて材部の朽ちて粉状となつたものを食するとの事で7月下旬より8月中旬にかけて最も発生するとのことである。

（産地）　神戸摩耶山。

（分布）　日本（本州、九州）。

Genus Gnorimus Serville

日本産本属には3種知られているが県下には1種のみを産す。

2. G. viridiopacus Lewis　アオアシナガハナムグリ

図説されているのでよく知られているのがやや高地性の種の様である。今迄県下での産地は知られていなかつたが山本氏により氷上郡神楽村で記録された稀な種であると思われる。

（産地）　氷上郡神楽村

（分布）　日本（本州、九州）、樺太、朝鮮。

Genus Paratrichius Janson

本属の日本産は2種知られているが1種は奄美大島に産する。

3. P. doenitzi Harold　オオトラハナムグリ

本種も良く図説されているが県下では氷の山及び宍粟郡音水渓谷に産し特に氷の山では多い。本種の幼虫は宮武氏の報文がある（1954）。

（産地）　養父郡氷の山、宍粟郡音水。

（分布）　日本（北海道、本州、四国、九州）

Genus Trichius Fabricius

本属には3種知られているが1種は奄美大島に産す。

4. T. japonicus JANSON　トラハナムグリ

関氏により小寺正文氏が武田尾で採集された記録（1934，この報文ではT. fasciatus の学名になつているが野村氏の研究により T. japonicus が正しい学名となる、T. fasciatus は日本に産せず）及び奥谷氏が養父郡熊次で記録されておられ宍粟郡音水で後藤氏も2種採集された、珍しい種であると考えられる。

（産地）　宝塚市武田尾。養父郡熊次。宍粟郡音水。

（分布）　日本（北海道、本州、四国、九州）

5. T. succinctus (PALLAS)　ヒメトラハナムグリ

本種は5月下旬、6月上旬頃、普通に産する。

従来本種は T. abdominalis の学名で呼ばれていたが沢田氏の研究（1943）により Lasiotrichius succinctusと同一種である事が報告され改めて T. succinctus なる学名で両者を整理された。

（産地）　神戸一御影、烏原、山の街、鵯越、多井畑。

（分布）　日本（北海道、本州、四国、九州、屋久島）、済州島、朝鮮、東部シベリア、アスコルド島。

Subfamily Valginae

日本産本亜科には4属4種しか知られていないが県下には3属3種を産する、もつとも他の1属1種は屋久島特産種である。

県産 Valginae 亜科の属の検索表

1. 前脛節7歯を有す……Nipponovalgus
— 前脛節5歯を有す……2
2. 前背板は翅鞘よりも余り巾狭からず、前背板、翅鞘、前尾節に叢毛明らかならず……Valgus
— 前背板は翅鞘よりも非常に狭し、翅鞘、前尾節に隆起せる叢毛を有す……Dasyvalgus

Genus Dasvalgus KOLBE

1. D. tuberculatus (LEWIS)　トゲヒラタハナムグリ

個体数は少い。産地も県北部高地帯にのみ知られる。

（産地）　雪彦山氷上郡神楽村。養父郡氷の山

（分布）　日本（本州）

Genus Nipponovalgus SAWADA

2. N. angusticollis (WATERHOUSE)　ヒラタハナムグリ

極めて普通に産する。

（産地）　兵庫（SCÖHNFELDT. 1877）. 神戸一御影、摩耶山、烏原、山の街、鉢休山、舞子。出石郡神楽村。

（分布）　日本（本州、四国、九州）、対島、済州島、朝鮮。

Genus Valgus SCRIBA

3. V. pictus fumoseus (LEWIS)　オオヒラタハナムグリ

本種の原種はネパールに産し（ネパール産原種は ARROW により Charitovalgus 属とされていたが前背板の隆起線甚だ高からず、その前縁角も亦余り圧抑されず、前尾板の気門突起は細長なること、中脚基節間の距離は余り広くない等の点において沢田氏は Valgus 属に属せしめた）、台湾産 subsp. taiwanus. 琉球産 subsp. lateus、四国産 subsp. sikokuensis、北海道、本州、九州、朝鮮産 subsp. fumosus の4亜種にわけられる。

この亜種は shikokuensis と共に腹面は僅少の黄色鱗片を有するのみで尾節板の同色縦条をなすのみであるという点で他の亜種及び原種と区別される。稀である。

（産地）　宍粟郡音水。養父郡氷の山。

（分布）　日本（北海道、本州、九州）、朝鮮。

……

なお前報文スジコガネ亜科（Subfamily Rutelinae）に属する種の内でその後の調査で産することが確認された2種をここに追加として記録して置き度い。

1. Anomala intermixta ARROW　アオウスチャコガネ

本種はキスジコガネ A. irrgularis (WATERHOUSE) に良く似ている。頭楯は前縁略ぼ直線状にて中央僅かに彎曲し、極く僅かに上反する。前頭は強き点刻を稍や粗に存在する。前背板は緑黒色にして上面及び側縁に僅少の白色細毛を存す。周縁少しく黄褐色を帯ぶ。小腮枝末節は三角形である。稜状板は半円形にして無毛僅かに点刻あり、黄褐少しく緑色光沢あり。翅鞘は黄褐色にして上面殆んど毛を有せず条線はやや深くして中間帯に強き皺状の凹みと細点刻を存す。尾節板は黄褐で浅き網状をなしやや長き毛を具う。下面黄褐に銅黒色を交え白き細毛を生ずる。

県下では稀な種で現在では北部山地にしか産しない様に思われる。

（産地）　神戸市摩耶山？、養父郡氷の山。

（分布）　日本（北海道、本州、四国）

2. A. albopilosa HOPE　アオドウガネ

本種に就いては県下の記録があり、ヤマトアオドウガネ A. viridana とよく似た種であり前報文では本種の県下の産は疑わしいとして省いておいたがその後の調査の結果やはり両者ともに県下に産することが確め得られたのでここに記録して置く。

本種は翅鞘膜縁よく発達し、巾広くかつ長く、体の側面より見た場合後基節の外縁の中央よりも前縁角に近くより始まる、尾節板に淡褐色毛を密生する。本種の幼虫に就いては後閑氏のものがある（1956）. 個体数

は多くない様で現在の所北部方面では未採集である。奄美大島より f. gracilis が知られている。

（産地）　神戸市一御影、摩耶山、須磨。氷上郡柏原。出石郡神美村。飾磨郡前之庄。津名郡岩屋。

（分布）日本（本州、四国、九州、対島、種子島、屋久島）、済州島、朝鮮。

以上で兵庫県産コガネムシ科として11亜科、35属、103種、1亜種、10変種、3異常型を記録したが、日本産13亜科、58属、247種、11亜種、36変種、2型、7異常型（内本州産としては187種）の半分にも足らないが本州産のみからすれば半数以上になり今後の調査によりさらに産地の加え得るものも出て来る事と考えられる。特産種というものは残念ながら産しない。

参考文献

参考文献は非方に多く兵庫県関係のものは兵庫県産コガネムシ研究小史（1955）に採録したものを参照していただきたくその他は前回までの各報文末に記さなかつた内から重要のもののみを記す事にした。

1. G. J. Arrow; 1913, Notes on the Lamellicorn Genus Popillia and Description of some new Oriental Species in the British Museum; Ann. Mag. Nar. Hist. 8, XII, pp. 38～54.
2. ——; 1921, A Revision of the Melolonthine Beetles of the genus Ectinohoplia; Proc. Zool. Soc. pp., 267～276, No. XIX.
3. G. Kraatz, 1879, Ueber die Scarabaeiden des Amur-Gebietes; Deut. Ent. Zeit. XXII. Heft. II. pp. 229～240.
4. S. I. Medvedev; 1952, Larve of the Lamellicornia (Col.) of U. S. S. R.
5. ——; 1949～1952, Fauna U. S. S. R.; vol. X, No. 1～3, Scarabaidae
6. J. Murayama; 1938, Revision des Sericines (Coleopteres Scarabaeides) de la Coree; Ann. Zool. Jap., XVII. 1. pp. 7～22.
7. 村山醸造、1954，満鮮金亀子図説、第1巻。
8. M. Miyatake, 1951, The Larva and Pupa of Paratrichius doenitzi (Harold, 1879) (Coleoptera; Scarabaeidae); Trans. Shikoku Ent. Soc. II. 1, p. 1.
9. 野村鎮、1943, Trichius fasciatus と T, japonieus に就いて：日本の甲虫、II, 1.
10. 沢田玄正、1937，日本産ビロウドコガネ属に就いて；日本の甲虫、I, 1, p. 18.
11. ——; 1938, 日本産 チヤイロコガネ属に就いて；日本の甲虫、II, 1, p. 5.
12. ——; 1938, Phyllopertha属数種の色彩の変化；日本の甲虫、II, 2, p. 76
13. ——; 1938, アカビロウドコガネ属の属名及び数種ビロウドコガネの種名；日本の甲虫 II, 2, p. 101.
14. ——; 1938, 日本産ビロウドコガネ類2種：日本の甲虫、II, 2, p. 87.
15. ——; 1939, The Valginae of Japanese Empire (Coleoptera. Scarabaeidae) Trans, Kansai Ent. Soc. 8, pp. 81～91.
16. ——; 1941, 日本産ヒラタハナムグリ亜科の研究（第2報）；日本の甲虫、IV, 1, p. 1.
17. ——; 1943, ヒメトラハナムグリ Trichius succinctus (Pallas) に就いて；関西昆虫学会々報、XI, 1. pp. 4～7.
18. ——; 1949, 日本産クロコガネ属甲虫の再検討；昆虫、XVII, 6, p. 72.
18. ——; 1950, カバイロビロウドコガネに就いて；関西昆虫学会会報、XV, 1, p. 18.
19. ——; 1950, 日本・琉球・台湾産のコガネムシ；虫報, No. 2.
20. ——; 1950, 琉球列島のコガネムシ類；東京農業大学集報, II, 2, pp. 257～317, pl. XXV～XXVII.
21. ——; 1955, On some Lamellicorn beetles of the Genus Sericania with a List of the Japanese Sericania; Jour. Agr. Sci. Tokyo Nogyo Daigaku, II, 4. pp. 563～583, plXL, XLI.
22. Z. Tesar, 1938, Beitrag zur Kenntnis der pall Lamellicornien; Ent. Nachrichtenblat Band XII, Left. 3/4, pp. 165～168.

（I—IX—1958）

昭和34年度総会御案内

昭和34年度、総会は来る5月30，31日竜野市市立竜野中学校で開催される。詳細は同封の案内書を御覧下さい。

第1日は、講演会、新たに天然記念物に指定されたカタシボの見学、夕方は講師を中心として理科教育の困難点についての座談会。場所は当市の梅玉旅館。

第2日は城山原始林及び、天然記念物屏風岩でそれぞれ専門家の御指導を受ける。

なお研究発表希望の方は至急、同市県立竜野高校三浦佳文氏に申し込んで下さい。